

1. 「2019年6月度 修習技術者研修会報告」

2018.7.3

修習技術者支援委員会
委員補佐 新海 平

2. 研修会概要

日時 2019年6月8日(土)
13:00～17:05
主催 公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援委員会
会場 機械振興会館 6階 6-65 会議室
基本課題 「業務遂行能力」
コミュニケーション研修会②

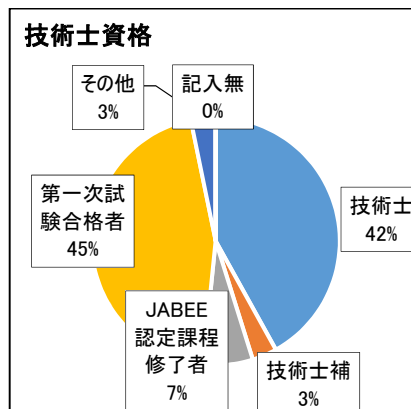


図1 参加者ステータス

3. 研修会の内容

研修会 司会・進行	高橋 委員
開会挨拶	13:00～13:05 石附 委員長
修習技術者発表研究会	13:05～13:45 平山 康浩氏 (経営工学部門)
休憩	13:45～14:00
講義・演習 「空気を読まずに 0.1 秒 で好まれる方法。」 ～印象力で劇的に話し かけられる人になる～	14:00～15:30 講師: 柳沼 佐千子氏
休憩	15:30～15:40
講義・演習(続き)	15:40～16:50 講師: 柳沼 佐千子氏
質疑応答	16:50～17:00
まとめ	17:00～17:05 野村 副委員長
情報交流会	17:15～18:35

4. 参加者

今回のセミナーは、技術士、技術士補、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者(修了者を含む)の計 34 名の参加であった。(図 1)

参加者の技術部門は、電気電子、機械、化学、建設、経営工学などであった。参加者の居住地は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、関東地区だった。

参加の動機は、①テーマ・講師に興味が多かった(図 2)。

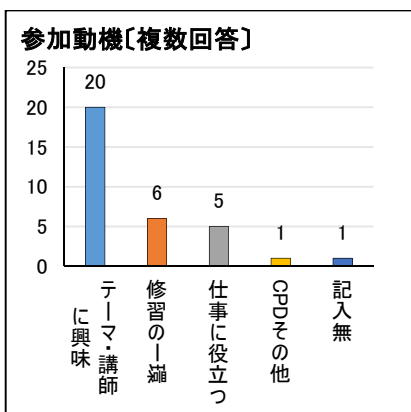


図2 参加者動機(複数回答)

5. 研修会

司会高橋委員の開始アナウンスから始まり、石附委員長が開会挨拶を行った。

本研修会の前に修習技術者発表研究会が行われたが、本報告においては研修会の報告を本章で記載し、発表研究会の報告は 6 章に記載する。

◆研修会概要説明

石附委員長が技術士に必要な専門知識についての説明をした。技術士に求められる能力・資質は多岐に渡り、とりわけ「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の全てを理解・習得する必要がある。今回の研修会では「業務遂行能力」の資質向上であり、それを取得することで自身の業務にどういかに重要であると説明した。

司会者である高橋委員が研修の目的として理解と応用について、加えて著作権上の注意の説明をした。続いて講演者である柳沼講師の紹介と経歴を説明した。



写真1 石附委員長 挨拶風景

◆講義・演習

講師は、印象エキスパート株式会社の代表取締役の柳沼佐千子氏にご講義頂いた。講演のテーマは「空気を読まずに0.1秒で好かれる方法。」～印象力で劇的に話しかけられる人になる～であった。過去に講師の企業内研修の後に売上が上昇し、クレームが減少した企業も数社あった。



写真2 柳沼講師

本講義では人に好かれる方法を教えると同時に演習を終わったら即使えるように演習を多く取り込んだものであった。その点において企業のマナー研修とは異なるものであった。

講演は以下の内容に沿って行われた。

① 前程の変化

最初に出会った瞬間から第一印象があるということで参加者及び関係者に対して好かれる割合を10人中何人という形式で講師が質問した。その結果、2人という回答が最も多かった。

本講義で目指すのは全員に好かれることとそれが前提条件になることであった。

また、声と外見で印象を与えるのが全体の93%であると講師が述べた。例えば、「ありがとうございました。」という一言においても声と外見で大きく変わることを説明した。

この説明の後、2人で会話し実践する演習に進んだ。

② 思いっきりの笑顔

2人ペアになって「口を大きく」、「ほほを膨らます」、そして「目を細くする」の三つを守って相手より先に実践する演習から始まった。その後、演習ではハイタッチも取り入れるようになった。実践した感想をペアで議論し、参加者の一部の方が全体向けに説明した。また、聞く態度について、前傾姿勢にする必要があると講師からの指導もあった。



写真3 笑顔の実践

③ 拍手

2人ペアになって「強く」、「音を最初から大きく」、「笑顔」の三つを守って相手より先に実践する演習をした。その際、先ほど実践した思いっきりの笑顔を忘れてしまい、無表情のまま拍手の練習をしていた方が数名いた。さらに、過去を振り返ったことを話題にして2人ペアになって議論した。



写真4 拍手の実践

④ 三つの表情

三つの表情について講師は「思いっきりの笑顔」、「待機の笑顔」、そして「やる気のない真顔」を説明した。1日の約80%が「やる気のない真顔」であると説明した。そこで、演習では2人ペアになって相手のカメラでその人の三つの表情の写真を撮った。



写真5 三つの表情の写真撮影

⑤ 行動へ移すために

ある物事について人は「感情」→「理論」→「行動」の順であると講師が説明した。このうち講師の担当は「感情」のコントロールであった。2人ペアで例として車購入時を想像して議論した。笑顔は何回も訓練することが重要であると講師が説明した。本講義および演習で一番印象に残ったことを2人または4人ペアでシェアした。

⑥ 質疑応答

講義および演習全体で参加者から「怒る必要のある時でも笑顔が必要か。」「失敗に対して謝る時の表情」などについて質問があり、「それでも笑顔が必要である。」と講師が回答した。

6. 修習技術者発表研究会

本研修会に先立って第324回の修習技術者発表研究会を行った。司会の飯田委員補佐から、1.発表研究会の紹介、2.研究会の進め方、評価基準、聴講の注意等の説明があった。

◆（発表）経営工学部門 平山 康浩氏

発表題目は、発表者の業務とは独立した内容の「エスカレーターのマナーアップ」であった。発表順は①自己紹介、②テーマ選定理由、③エスカレーターの片側空けの経緯、④エスカレーターのシミュレーション、⑤共感、⑥私の実践、⑦振り返り、⑧提案であった。

テーマの選定理由として、エスカレーターの片側空けがマナーとして定着している。一方、エスカレーターには歩行禁止などのステッカーが貼られている。片側空けの習慣が根強く残る中で、これをなくそうと（公社）東京都理学療法士協会の働きかけが始まった。その意義を共有し両側で立つ実践のきっかけづくりをしたためであった。

現在、世界中においてエスカレーターの片側空けが習慣になっている。そこで発表者は両側停止と、左停止・右歩きの場合の二つのパターンを全長30mのエスカレーターで350人が利用するというなどの前程条件を基にシミュレーションした。その結果、左停止・右歩きでは渋滞が発生したことで両側停止より時間がかかったというのが分かった。しかし、それだけでは両側立ちを実践できるか疑問が残るため、あるハンディキャップを持った事例に発表者は共感し、両側に立ちデータ採取を日課とした。その日課により両側立ちが習慣になった。しかし、後ろに立った人の共感を誘うメッセージも必要であり、その提案を実施した。

質疑応答として、発表者の都合の良いシミュレーションになっていないかとの質問に対して、条件設定は論文からの引用と回答した。その他、エスカレーターに着目した理由や社会への浸透についての質問があり、それらについて回答した。



写真6 平山氏の発表



写真8 情報交流会

7. まとめ

以上

修習技術者発表研究会および研修会の最後に野村副委員長から本日のまとめが行われた。

技術者は世の中使ってみて分かることを確認、説明する。本研修会ではその前提の話題であり、非常に良い研修会であったと説明した。発表研究会での平山氏の発表についてエスカレーターの説明は本研修会につながる内容であったと説明した。



写真7 野村副委員長まとめ風景

8. 情報交流会

211会議室に場所を移し交流会を行った。講師、参加者、修習技術者支援委員会委員、委員補佐等が講演および発表の内容などを踏まえた活発な意見交換をした。また、今後の修習活動に向けても、積極的な情報交換を行った。